

わんぱく学園ニュース

平成18年 6～7月号 No125

野山に生え、6月頃茎に淡い紅紫色や白い花を数多く釣鐘状に下向きにつける。花の内に紫の斑点がある。雨の多いこの6月頃に咲き、雨の雫に濡れたさまは、ひとしお可憐で心うばわれる花…。幼き頃、この花に蛍を入れて遊んだ懐かしき思い出をもつ私。

ほたる袋とも…「釣がね草、間がりぐらしの、夏ぼたる」 ～垣

「ご縁に生かされて…」

総社市 癒(医)者 長谷 敏明

二年前の秋に、松江で山元加津子さんの講演会がありました。その会とその後の懇親会に参加したことで、土江さんとの出逢いがあり、今こうして原稿を書いていることが、不思議な感じがしています。

小学校5年生から、高校3年生まで8年間を松江で暮らしました。松江は大切な故郷だと思っています。

今自宅は倉敷市にあります。昨年11月に倉敷市の隣の総社市清音で、「清音クリニック」を夫婦でオープンしました。妻は小児科とアトピーを、私は内科と循環器の診療を中心にしています。

実は、10年ちょっと前、私自身が体調を崩したことが一つのきっかけになり、「畑と田んぼと温泉のある診療所」ができたらいいなぁと考えたのが始まりでした。病気になった方が、自分で病気になった原因に気付き、自分で病気を治していく。そんなお手伝いができたらいいなぁというのが理想なのです。

不完全な私たちは、自分たちの弱さを認め合いながら手助けし合える関係をつくって行く必要があるようです。診療所がそんな場の一つになればいいなぁと思っています。

先日、隣りに一反ちょっとの畑を借りました。少しずつ耕して畝をつくり、野菜を植えています。利用者と一緒に作物が作れたらいいなぁと考えています。(11月11～12日山元加津子さんの講演会を総社市と倉敷でします。ご都合のつく方は参加下さい。)

想いのままに……

長男(第2子)は、今、松江市古志町にある四ツ葉園に入所させていただき、コンクリート班で汗を流しています。

福祉の道へとスタートし、ポチポチと歩みはじめたばかりの私。そこには『この子なければ、到底経験し得ず』と誇りに思うこの長男との出会いがあつてのことです。

振り返ってみますに30年前、難産の末出産予定日より遅くこの世に生を受けた長男との出会いが、本当の意味での“生きる強さ”をこんなにも教えてくれようとは…。「どうも何かおかしい…障害があるのでは?」と気付いたのは、2～3カ月に入った頃でした。その頃の私は障害の方に対して全くとっていい程無理解で、遠い世界のことと受け止めていました。“成長と共に少しは回復するかも”という淡い期待さえありました。が病院(中国管内4箇所)のドクターの遠慮気味の所見から回復が難しいことが、はっきりしてきました。知的障害A級であるとはっきりした事により、子育ての考え方も対策も逆にはっきりしてきました。

そして、ハンディをもつ子の親がもっと社会の中へ…その事から始めなきゃあ。その事から一人ひとりの意識を変え、お互いに正しく理解し認め合いたい!…そんな世の中になれば…いやしたい!と。

長男が小学生の時、放課後ひとり遊びや家族との暮らししかない彼の姿に、私は背中を強く押された思いがしました。

当時、障害児をもつ親が悩みを解決するためには、何をどのように具体化具現化していったらよいか分からないが、先ず親が立ち上がり何とかしなきゃあ!“という切実な願いをもちました。

そこで“誰でもいつでも気軽に行ってみよう”という場があればいいのでは?と思ったのです。ハンディの有無・年齢・性別に関係なく誰ものがこだまし合う優しく心豊かで元気のある街づくりは、誰もの願いかと。一ステップとして学園の個性を出し生かそうと、心や体に様々なハンディをもつ子ども達の集う場を関係の親同士『平田手をつなぐ育成会・ことばを育てる親の会』が中心となり、19年前の1988年6月26日市当局のお力添えを頂き、子どもが主役の学園を創設致しました。

一部の保護者の中にはタブー視するといった現実もありました。我が子のハンディを認めたくないという親の思いは私も味わったこと。だからこそ子どもたちに必要なものをつくる事が大切だとその当時の関係者の家庭一軒一軒へと足を運び、対話を続けるうちに賛同の輪もポチポチと広がっていきました。

公募で決定した『わんぱく学園』の名称は、こういった考え・ポリシーを含んでいます。

毎週日曜日、市内外の様々な自然・場所を舞台に、魚釣り、山登り、斐伊川土手、電車バス汽車に乗っての穴道湖一周などの戸外遊び、絵描き、陶芸遊びなどの創作活動。それらの活動を通して、自分たちが住んでいる地域の資源を守ろうとゴミ拾いなど環境問題にも取り組みはじめています。

この長い年月を支えていただけたのは、地域の皆様を始め多くの方々のご支援、そして忘れてはならない市内外在住の陶芸家、画家、教員、地域の名人達人のスタッフのお陰でもあります。

この19年の間には、天気の良い日誰も来ない時もありました。が、例え一人だけの参加者でも、また一人も来ない時でも私たちスタッフは、集合場所で決して休まず待ち続けました。それは子育てと一緒に！“ありのままを受け入れる事が大切！”そして“待つことが大切！”と誰もが知っているから……。

人間誰しも自分らしく生き、地域に根ざした生き方が出来ればと思います。施設内の暮らしや活動だけにとどまらず、誰もが地域の中で等しく教育も、就労も、暮らしも、余暇も、地域の中で当たり前に出るといいなぁ～と思います。豊かな人生は、周りにどれだけ正しく知り・理解し・工夫する人がいるかどうかと思っています。

障害者・その家族もその支援をただ受けるだけではなく、自ら積極的に地域へ飛び出していく主体的な活動こそ本当の意味での自立につながっていくと考えます。

一生一度の人生、どこにいるかではない。そこで何を本気でするかでは？……と想うこの頃です。

(土江 和世 記)

♪ みなさん「子供の国家」という曲をご存知ですか？。

文学者ブレヒトの詩に、作曲家アイスラーが曲をつけた素敵な歌を。ブレヒトは、第2次世界大戦でめっちゃめっちゃになった祖国ドイツの再生を、子ども達に託して素晴らしい詩をつくりました。

他の人の決して上ではなく、でも、下でもなく生きていこう…と。

ドイツは敗戦を真正面から向き合って平和な国家のあり方を考えました。そこで生まれた歌です。そこにあるのは、勇気と強い精神力でした。

◆6月・7月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

6月11日	粘土で湯飲み茶碗(ハスの種入れ)作り(担当 榎野 麟・土江 和世) 7/1~2 荒神谷遺跡公園ハス祭りにて即売 場所 アトリエ「おちらと」
18日	竹笛を作って遊ぼう(担当 福田 龍 麟 アトリエ おちらと) どんな音が出るの加奈? 小刀がある人は持って来てね 竹等は学園で準備
25日	笹巻き作り(担当 原 鞆・山口 野・土江 和世 麟 アトリエ おちらと) 糊 300程度 ※持ち帰りあり!
7月 2日	ハス祭りへ行ってみよう!(担当 榎野・原・山口・土江) 会場 荒神谷遺跡公園の博物館前
9日	お休み
16日	木でコマ作りしよう!(担当 福田・土江 麟 アトリエおちらと)
30日	粘土でコネコネあそぼ!(担当 安食 明・土江 麟 おちらと) お茶処も「おちらと」で、ひろ校長のおもっせ話

集合時間 9時30分・集合場所 光人塾前駐車場

☆8月のわんぱく学園はお休みです。地域の行事に参加して下さいね

《学園の問い合わせ 土江090-7774-5913》 [文責 土江和世]